

# 古代山城 金田城とは？

金田城築城の歴史は今から1300年以上の昔にさかのぼります。

齊明6(660)年、唐・新羅連合軍の攻撃によって百済は滅亡しました。

倭国は百済復興を支援するため、天智2(663)年に大軍を派遣し、唐の水軍と錦江の河口付近で戦いましたが、大敗し朝鮮半島から撤退しました(白村江の戦い)。その結果、唐・新羅の来襲に備え防備を整えることが急務となりました。

大和朝廷は天智4(665)年に大野城(福岡県)、基肄城(佐賀県)、長門城(山口県)を、天智6(667)年に高安城(大阪府・奈良県)、屋島城(香川県)、金田城(対馬)を築き、国土防衛の備えとしました。

国防の最前線に位置する対馬の金田城は、重要な役割(見張り、通信)を担っていました。



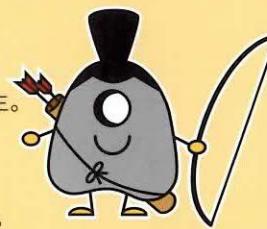
## 金田城案内人 オンジャくん

### <プロフィール>

金田城のイメージキャラクター。防人。

モデルは温石。温かい心と正義感の持ち主。

弓矢の名手。



温石とは？



防人が防寒等の為に使用していた今までいう「カイロ」のこと。滑石製で产地は不明。

他の山城からは発見されていません。最古の温石の可能性も…

## 交通アクセス



### 空から

### ご予約・お問い合わせ

ANA 福岡 ⇄ 対馬 1日4往復 (30分) ☎ 0920-52-7171  
☎ 0570-029-222

ORC 長崎 ⇄ 対馬 1日4往復 (35分) ☎ 0570-064-380

### 海から

### ご予約・お問い合わせ

### <フェリー>

博多 ⇄ 対馬(厳原港) 1日3往復 壱岐寄港 4時間40分

### <ジェットフォイル・ヴィーナス>

博多 ⇄ 対馬(厳原港) 1日2往復 壱岐寄港 2時間15分

九州郵船 ☎ 092-281-0831

### 金田城跡に関するお問い合わせ

対馬市教育委員会文化財課

〒817-0322 長崎県対馬市美津島町雞知甲1287番地1

☎ 0920-54-2341

fax 0920-54-4046

(デザイン協力 島おこし協働隊 村田真耶)

国指定特別史跡

# 金田城跡

謎の七世紀  
国防の最前線  
対馬築委國  
郡屋高安

対馬市教育委員会

## マップ



## 所要時間

① 県道入口(橋より) ~ ② 登山道(旧軍道) 登り口

※車両は普通車が数台駐車できます。約2キロ

## これより徒歩

② 登山道(旧軍道) 登り口 ~ ③ 三ノ城戸 約30分

② 登山道(旧軍道) 登り口 ~ ⑦ 頂上(旧軍施設跡) 50分

③ 三ノ城戸 ~ ④ 二ノ城戸 約10分

④ 二ノ城戸 ~ ⑤ 一ノ城戸 約5分

⑤ 一ノ城戸 ~ ⑥ 大吉神社 約5分

⑥ 一ノ城戸 ~ ⑦ 頂上(城山砲台跡) 約50分

(一部傾斜あり)

## 金田城豆知識

### さきもり とぶひ <防人と烽>

天智2(663)年の白村江の戦いに敗れた倭国は、防人(辺境守備兵)を東国から集め、対馬・壹岐・筑紫に配置し、唐・新羅の侵攻に備えました。

烽は煙を上げて危急を知らせる通信手段で、山頂付近にあったと考えられています。

対馬に烽は数か所あつたとされ、北から南へリレーし、壹岐を経由して大宰府までの通信体制が確立されていました。



南西部石壘



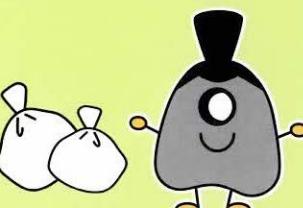
倭国を守るンジャ!



ゴミはお持ち帰りください。  
金田城跡をいつまでもキレイにするンジャ。



三ノ城戸



山頂石壘と浅茅湾

## これまでの調査結果

金田城は昭和57(1982)年3月23日に国の特別史跡に指定されました。平成5(1993)年度から発掘調査を開始し、これまでに多くの発見がありました。

ビングシ山鞍部、同山頂からは掘立柱建物跡が3棟、柵列1列(柱穴5個)が見つかりました。また、鞍部北東側より土壘と門礎石(1個)が出土し、ここに門があったことが判明しました。

また、土壘の断割り調査を実施した結果、現在の土壘の下から新たな土壘(版築)が確認され、新旧二時期に土壘が造られたことが判明しました。

二ノ城戸の調査では、1間×3間の礎石建ての城門跡が発見されました。城門内部は面が平らな石を敷き詰め、両側に一部階段も残っていました。

平成15(2003)年に城の南部、石壘付近を調査した結果、新たな城門跡が発見されました(南門と命名)。



金田城全景(南東から)



ビングシ山鞍部掘立柱建物跡



南門(非公開)

## 整備内容

これまで調査と同時に小規模な整備(案内板、道標、園路、伐採など)を実施してきました。平成14年度より本格的な整備に取り掛かり、調査が完了したビングシ山鞍部周辺では、整備(遺構表示、以降解説板設置など)を終えました。

今後は石壘や城戸などの修復工事(調査)に重点を置き、整備を進めています。

